

# 男女共同参画社会の実現を目指して

2016年6月発行 編集・発行：忠岡町人権広報課 電話：22-1122 FAX：22-0364

## ～災害時における女性特有のニーズ～

単なるわがままでと考えるに、何故それが必要なのかをきちんと理解する必要があります。今回は、そのようなニーズの一部について紹介します。



今年4月に発生した熊本地震や、平成23年に発生した東日本大震災において、多くの方が避難所で生活することになりました。避難所での生活においては、物資や設備等については、女性特有のニーズが生じます。しかし、女性避難者が相談しても「皆が大変な時にわがままを言うな」と切り捨てられる事例が発生しています。

### 男女別トイレの設置

トイレが男女共用だと、トイレ待ちの行列が非常に長くなるため、「こんなに並ばなきゃいけないなら、なるべくトイレに行かないようにしよう」とトイレを我慢したり、トイレに行かなくて済むよう水分を控えたりして、膀胱炎や脱水症状、エコノミークラス症候群等になりやすくなります。

また、共用トイレでは、女性が使用済みの生理用品を捨てづらくなります。

さらに、共用トイレでは、女性や子どもを狙った不審者がトイレ付近で待伏せしていても不審者だと気づきにくく、また指摘しづらいため、被害を防ぎづらくなります。



### 授乳室・育児スペース

赤ちゃんのためとはいえ、大勢の目の前で胸部をさらすのは抵抗を感じます。「授乳の際に男性がじろじろ見てきた」という事例もあるため、授乳スペースがあると安心して授乳できます。

また、子供が泣き出した際などに駆け込める育児スペースがないと、「この子といたら皆に迷惑をかけてしまう」と母親に相当なストレスが掛かります。

子供の夜泣きのために、母親が避難所を出て壊れた自宅に帰ってしまったという事例もあります。

「子どもがいたら皆に迷惑がかかるから」と、最初から避難所に行くのをあきらめてしまうケースもあります。



### 更衣室・物干し場

女性にとって、周りに丸見えの状態を着替えたり、男性の目に見える場所に下着を干したりするのは、かなり抵抗があります。「着替えの際に男性がじろじろ見てきた」などの事例もあります。

また、盗難や盗撮目的の人物が避難所にいた場合、女性用の更衣室や物干し場がないと、被害を防ぎづらくなります。



### 女性専用エリア

災害発生時には、被災者を狙った盗難や性犯罪が発生することがありますが、女性だけの世帯や、母親と子どもの世帯、単身の女性は特に狙われやすくなります。「夜になると男性が毛布の中に入ってくる」等の事例もあります。

女性同士で固まって行動できるよう、女性専用の生活エリアや、就寝スペース等を設けると、被害を防ぎやすくなります。

21  
設備に  
ついで



## 生理用品(ナプキンなど)

女性特有の生理現象である月経では、数日間出血が続きます。そのため、ナプキン等の生理用品が無いと、衣服が血で汚れてしまい、衛生状態が悪くなります。

また、血が付いたままの下着やナプキンを着用し続けると、感染症を引き起こす可能性があります。

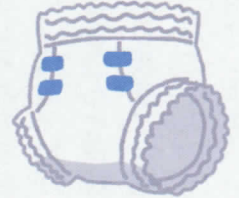
「布やティッシュで代用すれば良い」という意見もありますが、ティッシュでは血を十分に吸収することが出来ません。また、布を使っても、その布を洗うための水が避難所で不足している場合があるため、衛生的に問題があります。

## 紙おむつ用品 (紙おむつ、おしり拭きなど)

赤ちゃんや介護が必要なお年寄りがいる世帯では、たくさんの紙おむつが必要となります。

何日も同じ紙おむつを履き続けたり、充分におしりの汚れを落とせなかったりすると、おしりがかぶれてしまいます。また、細菌感染による炎症(膀胱炎など)を起こす可能性があります。

布おむつも使えますが、洗濯用の水や洗剤・石けんが避難所で不足している場合があります。



## 物資について

### 授乳用品(粉ミルク、哺乳瓶など)

赤ちゃんはあまり栄養を身体に蓄えられないため、食料の確保が必要不可欠です。

災害時は、被災によるストレスが原因で、母親の母乳が出なくなることがあります。また、生まれつき母乳があまり出ない母親もいるため、粉ミルクを十分に用意しておく必要があります。

粉ミルクを飲ませる際は哺乳瓶を使いますが、避難所では水不足のために哺乳瓶を十分に洗えない場合があります。そのため、新品の哺乳瓶がたくさんあると便利です。



### 物資担当者に女性を加えましょう!

避難所で物資を受け取る際、下着や生理用品等の女性用品については、場合によっては下着のサイズや、普段使っている生理用品の種類等を答える必要があります。そのため、物資担当者が男性のみだと、女性がこれらの用品を受け取りづらくなります。

また、物資担当者が男性のみだと、女性が必要な物資について要望を出しづらくなります。女性の担当者が居れば、女性が安心して物資を受け取ることができます。



## 各家庭でも3~7日分は用意しておきましょう!

災害発生から3日間は人命救助が最優先になり、支援物資の輸送はその後になります。しかし、災害による道路の遮断等により、物資が届くのが遅れる場合もあります。また、場所によっては交通が遮断されて孤立してしまい、そこに住む人々が物資のある避難所にたどり着けなくなる場合があります。そのため、各家庭でも3~7日分程度、物資を用意しておく必要があります。

水や食料はもちろんのこと、上記の用品も用意しておきましょう。



忠岡町地域防災計画にも、男女共同参画の観点から、先述の内容を盛り込んでいます。

計画は本町ホームページからも閲覧できます。

詳しくは役場自治防災課までお問い合わせください。